

読売新聞 平成 27 年 3 月 4 日

防災 ジュニア防災検定

土砂被災地近く 戸山小・中 挑む

小中学生の防災教育を促進する「ジュニア防災検定」が広島市安佐南区の市立戸山小、戸山中で行われている。中四国地区では初めての実施で、3日は同中の生徒38人が昨年8月に発生した土砂災害などに関する筆記試験に臨んだ。

検定は2011年の東日本大震災で、防災教育に力を入れていた中学校の生徒が避難行動の先頭に立ったことを受け、一般財団法人「防災検定協会」が14年に開始。初級(小学5年まで)、中級(小学6年～中学1年)、上級(中学2、3年)があり、これまでに全国で計約7000人が受検した。

台風や土砂災害などの仕組みや避難行動の知識を問う筆記試験(60点)のほか、家庭で話し合っ作る防災レポートと、ハザードマップ作成などの自由研究(計40点)で構成されており、70点以上を取れば合格バッジが贈られる。

戸山小・戸山中は土砂災害の被災地に近く、山裾にあるため受検を決めた。小学5年の16人は2月に筆記試験を済ませ、現在、自由研究に取り組んでいる。

3日、土砂災害の予兆現象やハザードマップの読み方などを問う試験に挑んだ同中1年の木原葵さん(13)は「災害についてより深く考えることができた。今後も家族で学んで災害に対応できるようにしたい」と話していた。